

ヒメケシゲンゴロウ

Hyphydrus laeiventris laeiventris Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国的に分布が局所的である。今回の調査では、坂井市でのみ生息が確認された。産地での個体数は多くない。今後、生息環境の悪化が懸念される。

種の特徴

体長 4.3～5.0 mm、体型は短卵型。暗色部が多く同属他種と比べ黒っぽく見える。池沼、放棄水田、湿地等の止水域に生息する。幼虫・成虫ともに肉食と考えられるが、詳しい生態は不明。

分 布

国内では本州、四国、九州に局所的に分布する。本県では坂井市で確認された。

生息を脅かす要因

生息地の開発による消失、水質の汚染、アメリカザリガニ等の侵略的外来種の侵入。これらに加え、マツノザイセンチュウ駆除のための薬剤散布地点が近く、影響が懸念される。外来種侵入・薬剤流入の防止、生息状況のモニタリング等の対策が望まれる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

ツヤハダクワガタ (関東地方～紀伊半島亜種)

Ceruchus lignarius monticola Nakane
コウチュウ目・クワガタムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を含む9県でレッドリストに掲載されている。奥越のブナ帯で調査を行ったが確認できなかった。本県では奥越の非常に限られたエリアに生息するものと考えられる。

種の特徴

体長オス 12.1～22.0 mm、メス 11.8～16.7 mm。体型は筒型、体色は黒褐色～黒色で強い光沢がある。ブナ帯上部～針葉樹林帯の、標高の高いところに生息する。成虫は夏に活動し、灯火にも飛来する。幼虫は様々な樹種の褐色腐朽材を利用する。

分 布

ツヤハダクワガタの1亜種。本州(関東地方～紀伊半島)に分布する。県内では大野市と勝山市の山地での記録がある。今回の調査では確認できなかった。

生息を脅かす要因

森林の伐採・林道の建設による森の乾燥化に加え、愛好家による採集圧等が脅威となる。保全に際して、まずは生息状況の現状を把握することが望まれる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、岡島・荒谷 (2012)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

オオクワガタ

Dorcus hopei binodulosus Waterhouse
コウチュウ目・クワガタムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

里山の開発による生息環境の破壊と、商業目的の過剰な採集のために全国的に減少している。加えて、ペット放逐による遺伝子汚染のおそれも指摘されている。本県でも近年確実な生息情報がなく、生息環境は悪化していると考えられる。

種の特徴

体長オス 21～76 mm、メス 22～48 mm。黒色で体型は平たく幅広い。成虫は5～10月にみられる。樹液に集まるが、夜行性で日中は木の洞に潜んでいることが多い。灯火にも飛来する。

分 布

北海道～九州、対馬等に分布。県内では福井市、大野市鳩ヶ湯での記録があるが、後者は疑問の余地が残る。最近あわら市、鯖江市内で採集されているが、天然個体か否かは不明。

生息を脅かす要因

里山の開発、過剰採集が驚異となる。加えて、飼育個体の逃亡や放虫された国内の他地域産の個体との交雑による遺伝子汚染が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、岡島・荒谷 (2012)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○